

2025年8月1日（金）16:30～17:30
2026年3月期第1四半期 決算説明会

CFOの重田です。

本日は、お忙しい中ご参加頂き誠に有難うございます。

まず私から、2026年3月期第1四半期の経営成績概要についてご説明し、その後、経理部長の栗原より詳細をご説明します。

【経営成績サマリー（P4）】

当四半期の経営成績サマリーについてご説明します。

基礎営業キャッシュ・フローは前年同期比5億円増加の2,163億円の獲得となり、底堅く推移しています。

当期利益は前年同期の資産リサイクル益の反動を主因に845億円減益の1,916億円となりましたが、進捗率は25%と計画に沿っています。

【事業計画に対する進捗率（P5）】

こちらは事業計画に対する各セグメントの進捗率を示したものです。

基礎営業キャッシュ・フローは、全般的に好調に推移しています。

当期利益は、セグメントにより進捗率にばらつきはあるものの、エネルギーセグメント及び次世代・機能推進セグメントでは、季節性要因を中心に第2四半期以降に本格貢献を見込んでおり、全体として順調に進捗しました。

【キャッシュ・フロー・アロケーション（P6）】

キャッシュ・フロー・アロケーションの実績についてご説明します。

キャッシュ・インは、基礎営業キャッシュ・フロー2,160億円と、資産リサイクル540億円を合わせて、2,700億円となりました。

キャッシュ・アウトは投融資合計で2,080億円となりました。

主な投融資案件としては、欧州タンクターミナル事業 ITC Antwerp の完全子会社化を実行したほか、低炭素アンモニア Blue Point などに係る投資も開始しました。

引き続き、中期経営計画に沿った成長投資及び資産リサイクルを、着実に実行してまいります。

【新規案件の収益貢献開始時期 (P7)】

2024年3月期の現中経スタート以降、Industrial Business Solutions、Global Energy Transition、Wellness Ecosystem Creation の3つの攻め筋それぞれにおいて、複数の成長投資を実行しました。このうち早期に収益貢献を開始している案件が、当社の基礎収益力を底上げしています。さらに、長期収益基盤を拡充する成長投資も着実に進捗しています。

2026年3月期に入り、ITC Antwerp 子会社化、航空機エンジン事業ウィリス・ミツイ・エンジンサポート(Willis Mitsui & Co. Engine Support)への追加投資を通じた業容拡大、Ruwais LNG への投資開始など、当社が深い知見を有する領域における投資を決定、実行しました。

引き続き、攻め筋に沿って厳選した投資を確実に積み上げていきます。

【株主還元方針 (P8)】

株主還元方針については、2025年3月期決算公表時から変更はありません。引き続き、成長投資とのバランスも意識しながら、株主還元の拡充を検討していきます。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

続いて、経理部長の栗原より、四半期業績の詳細をご説明します。

= 経理部長パート =

【経営成績の詳細 (P9)】

経理部長の栗原です。

それでは、経営成績の詳細についてご説明します。

【基礎営業キャッシュ・フロー：セグメント別前年同期比 増減要因 (P10)】

先ず、基礎営業キャッシュ・フローの前年同期比増減について、セグメント別にご説明します。

当四半期の基礎営業キャッシュ・フローは、前年同期比 5 億円増加の 2,163 億円の獲得となりました。

金属資源では、鉄鉱石・原料炭価格下落を主因に、163 億円減少の 719 億円の獲得となりました。

エネルギーでは、ガス価格の上昇がありましたが、生産数量減少などを主因に、70 億円減少の 457 億円の獲得となりました。

機械・インフラでは、前年同期資産リサイクルに伴う税金の反動を主因に、117 億円増加の 361 億円の獲得となりました。

化学品では、海外事業に関わる引当金取崩益、欧州農薬事業における需要の増加を主因に、75 億円増加の 327 億円の獲得となりました。

鉄鋼製品では、トレーディング、持分法適用会社からの配当を主因に、43 億円増加の 63 億円の獲得となりました。

生活産業では、「その他、調整・消去」とのセグメントをまたぐ取引を主因に、80 億円減少の 10 億円の支出となりました。

次世代・機能推進では、JA 三井リースからの配当金増加を主因に、46 億円増加の 121 億円の獲得となりました。

その他の要因として、生活産業とのセグメントをまたぐ取引の他、各セグメントに賦課しない経費・利息・税金を主因として 125 億円の獲得となりました。

【四半期利益：セグメント別前年同期比 増減要因 (P11)】

次に、当四半期利益の前年同期比増減についてセグメント別にご説明します。

当四半期利益は、前年同期比 845 億円減益の 1,916 億円となりました。

金属資源では、鉄鉱石・原料炭価格下落を主因に、290 億円減益の 515 億円の利益となりました。

エネルギーでは、ガス価格の上昇がありましたが、生産数量減少などを主因に、3 億円減益の 189 億円の利益となりました。

機械・インフラでは、前年同期における資産リサイクル益の反動を主因に、753 億円減益の 507 億円の利益となりました。

化学品では、ITC Antwerp の公正価値評価益を主因に、127 億円増益の 309 億円の利益となりました。

鉄鋼製品では、5 億円増益の 65 億円の利益となりました。

生活産業では、8 億円増益の 148 億円の利益となりました。

次世代・機能推進では、JA 三井リースの増益を主因に、41 億円増益の 103 億円の利益となりました。

その他の要因として、各セグメントに賦課しない経費・税金・利息などにより 80 億円の利益となりました。

【四半期利益：要素別前年同期比 増減分析 (P12)】

ここでは、当四半期利益を前年同期と比較し、その増減を要素別にまとめています。

「基礎収益力」は、船舶子会社の減益はありましたが、化学品セグメントに於ける主要事業、LNG 関連、次世代・機能推進セグメントにおける関係会社業績などを主因に、合計では 100 億円の増益となりました。

「資源コスト・数量」は、銅事業におけるコスト増や数量減、エネルギー事業における数量減を主因に、170 億円の減益となりました。

「市況」は、原油・ガスで 100 億円の増益となりましたが、鉄鉱石や原料炭の価格下落により金属資源で 150 億円の減益となり、全体で 50 億円の減益となりました。

「為替」は、円高を主因として 150 億円の減益となりました。
この結果、「市況・為替」は 200 億円の減益となりました。

「資産リサイクル」は、前年同期反動を主因に 720 億円の減益となりました。

「評価性/一過性要因」は、ITC Antwerp の評価益を主因に 150 億円の増益となりました。

【2025 年 6 月期末 バランスシート (P13)】

当四半期末のバランスシートについてご説明します。

25 年 3 月末と比較して、ネット有利子負債は 0.1 兆円増加し、3.4 兆円となりました。一方、株主資本は 0.1 兆円増加の 7.6 兆円となりました。この結果、ネット DER は 0.45 倍になりました。

以上をもちまして、私の説明を終わります。